



AA日本ニューズレター

No.199

■ 2019年地方圏ゼネラルサービスフォーラムを終えて

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

全国選出常任理事 大迫

11/2(土)名古屋市社会福祉会館にて『地方圏ゼネラルサービスフォーラム』を開催しました。当紙面にて、今回共同で企画した村川理事と、参加していただいた地域評議員から武田評議員と佐々木評議員に、詳細や感想等を報告していただきます。

今回は半日の試験的なプレ企画でしたが、常任理事会では今後も同様に、地域を跨いだサービスイベントを継続して開催したく、その旨を2020年2月第25回評議会に提案しています。

参加された方はもちろん、今回の記事を読んでご意見、ご感想がございましたら是非、地域評議員に託して頂ければと思います。また、関係者の皆様にも、AAの活動の一端をお知りいただきたくご一読くださいますようお願いいたします。

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

地方圏:日本には東日本圏(北海道、東北、中部北陸地域)、西日本圏(関西、中四国、九州沖縄地域)と関東甲信越地域(地域分割後、関東甲信越圏)の3つの地方圏があります。

のメンバーも参加されました。

各地域の評議員や職員のプレゼンテーションスピーチでは、アクセシビリティ※3や国際的なつながり、また各地域の現状などを背景に報告がされました。会場のメンバーからは、来日したばかりのメンバーが「日本語が話せないが、自分もサービスに参加したい。」とのスピーチや、「グループにポルトガル語しか話せないメンバーがいる」などの事例が分かち合われ、「自分のグループには、耳の聞こえないメンバーがいる。グループで話し合い助け合っている」などの報告もされました。

※3:アクセスのしやすさ。つまり高齢者や障害者など、いろいろな背景のアルコールクがAAの情報やサービスに接しやすいようにすること。

JSO 担当理事としては、JSO 職員が日々の業務のなかで蓄積されてきた情報を皆さんにプレゼンテーションでき、情報センターとしてのJSOの役割が改めて示されたことを実感しました。また、分かち合いの中で直接ゼネラルサービスの必要性を聞くことができたことは、大きな経験となり今後の活力となりました。

「どこかで誰かが助けを求めたら、そこにAAの愛の手があるようにしたい。それが私の責任だ」という言葉がプレゼンテーションのスピーチのなかで繰り返し使われ、分かち合いのなかで一体性を強く感じました。老若男女、サービス経験の長短を問わず、全てのメンバーにとって有意義な分かち合いになったと思いました。当日サービス関連の書籍が予想以上に頒布されたことも、共通の目的に向けて気持ちが一つになった結果だと思います。

準備期間が短く、当日の実行委員を務めて下さった中部北陸地域のメンバーにはたいへん苦労をおかけしました。また、告知期間も短かったことで新しいメンバーが参加しにくかったことも反省点です。しかし、今回の試みはまだプライベートです。年明けの第25回

ゼネラルサービス常任理事 村川

常任理事会では昨年よりゼネラルサービスの財務状況の改善を最優先の課題として、繰り返し献金のお願いをしてきました。しかし、献金はメンバーの自発的意志であるので、JSOや常任理事会全体の活動を知っていただくこと、つまり今のゼネラルサービスに惹き付ける魅力があるかどうか判断していただくことが一番大切だということも話し合ってきました。

そんな折、197、198号ニューズレター「太平洋地方サービス集会PRAASA2019参加報告」で報告させていただいた通り、今年3月に大迫理事や数名の仲間と一緒にアメリカ・カナダの地方圏サービス集会※1に参加し、喜びとともに一体性を醸し出す仲間達を目の当たりにし、惹きつける魅力を実感してきました。また、アメリカ・カナダGSOでは地方フォーラム※2を開催していることがわかり、この2つを合わせたフォーラムを大迫理事と共同で企画してきました。

※1:地域や役割の枠を越えたサービスの分かち合い。PRAASAは一つの好例。いわば「サービスのラウンドアップ」

※2:「出張GSO」といった趣向で毎年行っているフォーラム。

当日は中部北陸地域委員会のメンバーに実行委員をお願いし、参加者数51名。評議員7名、理事2名、JSOスタッフ1名、WSM評議員1名が参加。地方圏別では、東日本圏25名、西日本圏11名、関東甲信越地域10名、その他5名と全国各地から参加していただきました。元評議会構成メンバーも多数参加され、各所で「ひさしぶり」と握手する姿が目につきました。また、日本に在住の海外

評議会にサービスフォーラムの定期的な開催を提案しています。その企画案はアメリカ/カナダの形式をできるだけ習ったもので、一体性を醸し出す要素が盛りだくさん。宿泊を伴うフォーラムで、休憩や食事の時間も大切なプログラムです。アイスクリームタイムなどというユニークなプログラムもあるかもしれません。フォーラムそのものの自立も大切なテーマです。

この企画が、地域の枠を越えたサービスのラウンドアップのようなイベントになれば良いと思っています。評議員や地区委員、代議員はグループの良心で参加し、その他のメンバーは仲間同士で誘い合い、過去のサービス経験者はグループの新しい仲間を誘い参加する。サービスがソブラエティーを豊かにしてくれる、そんな機会になることを願っています。

～ プログラム案内 ～

■ パネル1 (地方圏サービス集会※1を想定)

テーマ「AAの未来のために」評議員によるプレゼンテーション
・「私の責任」朗読・「評議会で見えて・聞いて・感じたこと」関東甲信越評議員・「ゼネラルサービスに新しいメンバーを巻き込む」九州・沖縄地域評議員・「すべての仲間にAAの扉を開き続けよう」東北地域評議員・「金銭と霊性の交わる場所ー自立と愛の中に生きること」中部北陸地域評議員・参加者による上記テーマに関する分かち合い or スピーカーへの Q&A

■ パネル2 (地方フォーラム※2を想定)

テーマ「私たちのゼネラルサービスオフィス」
・「一体性の宣言」朗読・「世界のAAと繋がるーJSOを活用するー」国際担当JSO職員・「JSOの役割ーAAの未来のためにー」ゼネラルサービス常任理事・参加者による上記テーマに関する分かち合い or スピーカーへの Q&A

■ パネル3 「Q&A」

・質問をくじで引き、評議会構成メンバーが応えるQ&A

■ パネル4 「今考えていること感じたこと」

・参加者による分かち合い(本日発言していない人優先)

■ パネル5 ミニビジネス

・本日の報告・参加人数・参加費総額・献金総額・書籍頒布金額・本日の参加費の使い道について

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

東北地域後期評議員 武田

ひと言で表現するならとてもよい集まりでした。今でも会場のあの空気が伝わります。それは、企画の意図、その具体化、開催内容が、中部北陸地域を中心とした参加者に伝わり、結果として会場が一体化した結果だったのだと思っています。

その上で、この集まりを通して考えたことなどを3点取り上げてみました。

①**仲間から仲間へ／双方向性**:参加者は、(企画の意図どおり?)サービスに興味関心のあるメンバーが多かったと思います。過去の評議員経験者から代議員になろうとする方まで。進行の仕方も、効果的でした。会場のAさんからの質問は内容から判断して評議員のAさんに、BさんのはBさんに……。一方的な伝達や講義スタイル(あるいは言いつばなし)ではなく、話題をはさんで質疑が往き来する形でした。(A、B……間でもあってもっとよかったのかな?)

②**親近性**:お酒の問題があるなら誰でも参加できる——それを実現するには障壁を取り払う必要があります。タバコを吸わない人も不安を覚えず、小さなお子さんのいるメンバーや耳の聞こえのよくない人、車椅子使用の人も安心して参加できる環境。私たちの共同体の唯一の目標を実現するには、こうした環境整備が必要です。今回はこのことも話題にできました。

③**フォーラムと集会**:極端な言い方をすれば、垂直的なフォーラムと水平的な集会。PRAASA に(議決を伴わない)ミニ評議会のような性格があるのだとしたら、今回の企画は果たしてどのように位置づけられるのだろうか。

よい企画でした。私たちの共同体の未来につながるこの企画の今回の一番の成果は、しかし、何よりも、企画自体が企画されたことにこそあるように思います。もっとできることがあるはずだ——理事会の前向きな姿勢が伺われます。

(ところで、このコーナーは読みやすかったですでしょうか。無理を言って、ここだけ「丸ゴシック」で表記していただいたのです。前後の「明朝系のフォント」で書かれた部分とは是非比較してみてください。コレも親近性の一つと考えています。)

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

九州・沖縄地域前期評議員 佐々木

ここ数年、九州・沖縄地域の地域委員会や地域集会等で、様々な声が聞こえてきます。「新しいメンバーが増えない」「サービスに関わるメンバーが減っている」「サービスに無関心なメンバーやグループがある」「だから、輪番が難しくなってきた」「役割を含めたサービスの述べ伝えが、新しいメンバーにうまく伝わらない」等々。

また地域委員会に献金するグループが減っているのは、「グループが地域のサービスから離れているのでは?」「地域委員会がグループを“ないがしろ”にしているとか!」等、時には厳しい意見も聞こえてきます。

これは地域だけでなく、時として地方圏(地域を跨いだ)ゼネラルサービスでも、同じようにぶつかる壁、受け取り方や感じ方の違い、温度差だと思います。どうしたら伝える事ができるのか?どうしたらサービスに関心を持ってもらえるのか?と、試行錯誤でした。

そんな折、今回のフォーラムの話が舞い込み、迷わず参加しました。参加してみると、各地域からメンバー、元ゼネラルサービス経験者や各地域の評議員等の出席があり、短い時間の中でも、いろいろな分かち合いができました。

パネル1では、元評議会構成メンバーが「現在サービスに関わっているメンバーは、笑顔を絶やさず楽しそうに役割をしてほしい」「これからサービスに関わっていく仲間に、サービスの大切さと楽しさを伝えて欲しい」と話してくださいました。また、「難しい言葉やAA用語を乱用しないで、ごく一般的な言葉を使う事で、よりサービスを身近に感じて新しい仲間も加わってくれるのでは」と提案され、まさにその通り！と、とても印象に残りました。

パネル2では、ゼネラルサービス常任理事「JISOの役割ーAAの未来のためにー」を聞き、総合的にこれからのAAについて考える良い機会となりました。そしてなにより、JISOや職員がより身近に感じられ、距離が縮まる思いでした。

やはり、目の前の問題に取り組むだけでなく、数年後、10年後、20年後の未来を見据えてサービスを考えていく事が建設的で効果的と感じました。今回は半日と短い時間のフォーラムでしたが、時間を拡大して1日もしくは2日、内容をさらに充実したうえで、毎年このようなフォーラムが開催されることを切に願います。また、地域でも地方圏でも、サービスがより活性化されることが「未来の仲間を手渡していく大切な事」だと強く感じます。

■ **各地域より** ～* 各グループより、第25回評議会に向けたフェローシップ全体のテーマ「自立-金銭とスピリチュアル(霊的)なものが交わるころ」に合わせて経験を分かち合ってくださいました。

(JISO到着順)

「私の命はいくらでしょうか？」と考えることもある

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

富士のバラグループ ひろし

服屋さんにふらっと立ち寄ることがある。服の外観や模様をみて、すぐに値札を見る。「こんなに高いの？」と、さっと立ち去る。服には値段が付いているので、自分のお金を出して買うべきか、そうでないか判断できる。

AAに繋がってすぐにオフィスにお金がなくて大変だとグループの会計担当が説明してくれた。献金だけで無理だったら、行政に支援してもらえば良いとすぐに思った。きっと支援してくれるだろうとも思った。しかしそうではないと理解したのは、少し経ってから。

『12のステップと12の伝統』を読み、伝統7が「すべてのAAグループは、外部からの寄付を辞退して、完全に自立すべきである。」と知った。しかし当然、自立には値札が付いていない。

AAとの関わりはアルコール専門病院に家族に連れて行かれた時から始まる。主治医からは自助グループを紹介されたが、なぜ病院内で治療しないのか、なぜ外に行かなければならないか、疑問しか湧かなかつた。理解しようにも自分には理解が出来ない。そんな自分のことをやっとのことで認めるようになってから、ようやく仲間の話が聞こえ始め、そこから、お酒を飲まない時間が始まったように思う。

それにしても、外部からの寄付を辞退するにしても、自分はいくら払えば良いのか。AAは治療でしょうか？治療費はいくらでしょうか？仲間の話はいくらでしょうか？

仲間からは「無償の愛」等と聞く。それを受け取った私の回復や成長や、命も、数字で表すことは出来ない。

来年の3月には日本のAAが45周年を迎える記念集會が行われる。多くの仲間が集まり、45年の歴史に感謝することだろう。

その45年前、ほとんど何もない状態から日本のAAを切り開いてくれた先行く仲間、お金では買えない「無償の愛」で力を合わせ、まだ苦しんでいる仲間のために、将来の仲間のために、献身と献金でグループを作り、本を作り、ミーティング会場を拡げ、そして、オフィスを立ち上げてくれた。

AAがあったからこそ、今を生きて、暮らし、働く今の自分がある。今度は自分たちが、仲間と共に活動ができるよう、まだ苦しんでいる仲間のために、将来の仲間のために、・・・そんな順番がきたのだろう。「私の命はいくらでしょうか？」と考えることもあるが、そんなに安くはないはず。

献金は12ステップの実践だと、ようやく気付かせてもらったのです

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

旭川グループ ワタル

ミーティングが始まる前のことです。電話が鳴り私が参加するセミナーの担当から「参加費が多く支払われているので、当日お返しいたします」と連絡をいただきましたので、「すいません。よければ献金してください」と伝えました。それを近くで聞いていた仲間が「今、どういう気持ちで言ったんだ？」と聞いてきました。

その仲間は続けます。「献金は自分の意思を現わす行動だ」「今回は当日お金を受け取りそのまま献金すればいいだけのこと」「しかし難しいかもしれない、もったいないと考えてしまうかもしれない」「人に頼むと、いい気分になさせてくれるし、簡単だからな」

この話を聞いてから、献金は12ステップの実践だと、ようやく気付かせてもらったのです。それまでは「金を出せば許される」「金を払えば認められる」程度の考えしかなかく、根底には、恐れ、見栄、等々たくさん性格上の欠点が見えました。

その仲間は「献金は箱(袋)に入れた瞬間から自分の金ではない。気をつけなければいけない」とも話してくれました。それでも頭の中

では「俺は〇〇円も献金してるから…」と考えたり、会計担当は「今月は多かったから〇〇を買えばいい』等と考えがちです。また、「グループで用意する書籍は、初めて AA に来た人や旅行者の為にある」とも話してくれました。

今考えるとゾッとしますが、当時の私は、ホームグループのメンバーが、(私より)ソーバーが短いという理由で、グループの役割を独占していました。そのためほとんどの場合、「新しい仲間のために」と書籍を買ったり、「お湯を沸かすのが面倒」と電気ポットを買ったり、「コップ洗いも面倒」と紙コップを買ったり、という私の意見がグループの意見になっていました。グループとしても1人のメンバーとしても、とても未熟でした。

この結果、良かれと思って買ってしまった書籍がたくさんあるので、自分で買う仲間がほとんどいませんでした。『自立』というテーマに沿って考えると、本来は自分に必要と思う人が自分で書籍を買うべきでしょう。電気ポットや紙コップも、「他の仲間のために会場を準備することや「使わせていただいた会場に感謝する」ことに自分で気付く…。その機会を失わせてしまったように思います。

ところでテーマにある「スピリチュアル(霊的)」とは？ソウルは生命そのもの(魂)、スピリットは魂に働きかける精神(霊)と聞いたことがあります。私のスピリットは、献金箱にお金を入れて踏ん返り返ったり、貴重な献金を自己満足のために使ったりしていましたが、仲間を支えながら成長させていただいています。それでも私は、私のスピリットは、まだまだ未熟です。

献金箱に小銭が入っているのを見ると暖かい気持ちになります

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

三ノ輪グループ 和田

「AAの12の伝統」伝統7は、「全ての AA グループは、外部からの寄付を辞退して、完全に自立するべきである。」となっています。

ここで最初に浮かんでくるのは「金銭的な自立」かと思います。実際自分も、ソーバーになってしばらくは「金銭的に自立する」ことが自分にとって非常に重要でした。当時はまだ20代後半、体自体は健康で働ける状態にも関わらず、親の金銭的な支援に100%頼っていたからです。

今、幸いにも金銭的に自立することができていますが、それはもう自分にとって一番重要なことではなくなりました。

以前は、助けを求めること自体が自立していないことだと思って

いました。「強い人間は助けなしで生きていける」「生きていかななくては」と。

しかし、このプログラムのおかげで自分が他の誰か、何かに助けてもらわなければ生きていけないこと、他の仲間や人間も大なり小なり同じだと理解できるようになりました。そういった中で、必要な助けを求め、受け取り、感謝し、そして返せるものがあれば返すということが少しはできるようになりました。

自分にとってはそういった「本当の意味での自立」の方が大事なものになっています。他のものから支配されず、自分の最善を尽くし、必要な助けを感謝と共に受け取り、返せるものを返していくことです。

今、グループの会計係をやらせてもらっていますが、グループの金銭的な自立においても同じことが言えると思います。

グループメンバーだけで金銭も含めた全てをまかない、他の仲間たちからの手助けは全て断るというのも「自立」の一つの形とは思いますが、でもそれは狭い意味での弱く脆い「自立」のように思えます(かつての自分の孤独な生き方も重なります)。それよりも、ミーティング場に集まる全ての仲間金銭的なことも含めて必要な助けを求め、他のグループやミーティング会場に対して返せる手助けは返すというやり方の方が霊的にはもっと健全に自立していると思います。

これを可能にしているものの一つが「献金箱」つまりは「献金の匿名性」の精神だと思います。伝統7のミーティングなどで「一度献金箱に入ったらそれはもう自分のお金ではなくAAのお金なんだよ」という言葉を何度か聞いたことがあります。献金箱を開けるときには、誰がいくらを献金したのかということは考えません(たとえ誰かが献金をする姿を見かけてしまって、分かっていることです)。そうすることで、特定の仲間が金銭を通じてグループを支配することも、自分の献金額によってエゴを膨らませることもなくAAが続けられるのだと思います。

最後にですが、会計係をしていて毎回のミーティングの後に献金箱を開ける時、中に一円玉や五円玉の小銭が入っているのを見ると暖かい気持ちになります。自分自身、あまりお金に自由のない時期があったので、仲間が何とか献金をしようと最善を尽くしてくれているのだなと思えるからです。



編集：ニューズレター編集委員会・発行：NPO法人AA日本ゼネラルサービス

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org> jso-1@fol.hi-ho.ne.jp

(月～金)10:00～18:00 (土・日・祝) 休